

8. まとめと課題

本研究では、下記に示す2つの成果目標を設定した。

I. 各種災害による被害軽減のための要素技術の研究・開発

II. 都市防災性能の総合的評価に関する研究

Iでは、各種の自然災害（水害、地震災害、土砂災害等）ごとにハザード評価から被害軽減までの一連の流れの中で、被害想定・被害軽減対策等の要素技術を検討し、各成果目標に対して十分な検討が行われ、当初の成果目標を概ね達成できたものと考えられる。

一方、IIでは、地震、水害、土砂災害等の各種自然災害に対する地域の脆弱性・防災性を共通の尺度で評価するための「地域の防災性評価マニュアル(案)」を提案した。ここでの評価例として、地震動と洪水による家屋の被害想定をしており、地域の防災性評価の観点からは、成果目標を達成しているといえる。しかしながら、都市地域・都市施設における防災性評価（都市特有の課題、都市地域での複合災害の考え方）については十分な議論まで至らず、成果目標の達成度は低い結果となった。これは、現在のところ、災害毎または施設毎に得られているハザード・リスク評価手法を、複雑な都市システムに適用するための手法が確立されていないことが主たる原因と考えられる。

また、プロジェクト研究としての「総合化」といった観点から見ると、十分な結果とはならなかった。その原因として、対象とした現象が広範にわたり、しかも解明レベルに精粗があったこと、「総合化」に関する共通認識が必ずしも醸成されていなかったこと等が主たる原因と考えられる。

今後とも引き続き、都市域における複合的な災害に対する総合的な防災性能評価手法に関する取り組みが必要である。また、それらの災害に対する総合的な評価のニーズや災害の波及的な被害の評価手法等についても検討を継続することが必要である。